

1998年度 言語文化研究所事業一覽

I. 研究部事業

①研究員による基礎研究

村山 康雄 (情報学部教授)

研究題目 「引用を表す「って」－語用論の視点から－」

岡野 雅雄 (情報学部講師)

研究題目 「身体語彙の計量言語学的研究」

②研究員による共同研究

代表者 野原 章雄 (文学部教授)

研究題目 「西欧と対峙した日本人たち」

分担者 田辺武光・山本 卓・松永知子 (文学部教授)

野鳥正也 (人間科学部教授)

③客員研究員による共同研究

趙 秋 茹 (西安外国語学院講師)

研究題目 「中国人学習者にとってのコミュニケーション能力の育成」

④紀要発行

1999年3月13日 「言語と文化」11号

⑤1998年度研究員による基礎研究の報告

1. 研究題目「中世ヨーロッパにおけるキリスト教文化」

山崎 裕子 (国際学部助教授)

研究目標は、カンタベリーのアンセルムスが悪をどのように捉えていたかアウグステイヌスと比較しつつ考察することにあつた。

1997年度の日本倫理学会 (第48回大会、10月18日～19日、於九州大学文学部) 共通課題テーマが「悪」であつたので、言語文化研

研究所研究補助費により同大会に出席。7つの研究発表とシンポジウムに参加して理解を深め、研究の現状を確認した。

発表論文 「アンセルムスによる悪の理解—アウグステイヌスとの比較考察—」【日本カトリック神学会誌】 第9号
1998年7月31日発行

2. 研究題目「現代日本語方言における特殊音調の世代間の受け継ぎ」
亀田 裕見（文学部講師）

本研究は静岡県南伊豆町に分布する特殊音調の世代間の受け継ぎが、どのように進行しているのか、共通語化の現象とはどのような関係にあるのかを明らかにすることが目的であった。すでに調査済の高年層に加えて中年層及び若年層として南伊豆町入間の中学生を対に3拍名詞の調査した。その結果、予想以上に特殊音調の特徴が色濃く残されているようである。

発表論文 「中年層発話の音響学的特徴に見る南伊豆町特殊音調の展開」【言語と文化】 第11号
1999年3月13日発行

II. 研修部事業

①実用語学講座【英語・中国語・スペイン語・外国人のための日本語】

1998年5月12日（火）～7月17日（金） 春期講座

9月22日（火）～12月4日（火） 秋期講座

9月18日（金）～1999年1月26日（火） 日本語講座のみ

②夏期公開講座

1998年7月24日(金)・25日(土)

英語講座

7月24日(金)・25日(土)

書写・書道教育講座

③異文化体験講演会

1998年1月21日(木)『交換留学生在語る日本』

「留学生としての日本での生活」

クレメンス・アンネ(ドイツ)

「あるヨーロッパ人の日本研究」

バックハウス・ペート(ドイツ)

「ニュージーランドと日本の大学生生活に見る違い」

ラシュブルグ・トビー(ニュージーランド)



①実用語学講座報告

本研究所で本学内における言語教育の振興と普及に関する各種会合の開催の趣旨に基づいて、また本学が地域に開く生涯教育・社会教育として下記のとおり語学講座を開設致しました。

期 間：春期 1998年 5月12日(火)～7月17日(金)
 日本語講座 4月21日(火)～6月30日(火)
 秋期 1998年 9月22日(火)～12月4日(火)
 日本語講座 9月18日(金)～1月26日(火)
 毎週火・金曜日の各期20回コース 日本語講座(30回)
 開設講座：英語講座(初級・中級) スペイン語講座(初級)
 中国語講座(初級・中級) 外国人のための日本語講座

募集人数：各クラス20名

講 座	春期講座受講者	秋期講座受講者
英 語	55名 (初級 34名) (中級 21名)	54名 (初級 31名) (中級 23名)
中国語	22名 (初級 8名) (中級 14名)	27名 (初級 14名) (中級 13名)
スペイン語	6名 (初級 6名) (中級 1名)	7名 (初級 7名) (中級 1名)
外国人 のための 日本語	47名 (実習生 12名)	26名 (実習生 13名)

②夏期公開講座報告

(1)英語夏期講座

対 象：中学校／高等学校英語科教員又は教員志望者並びに埼玉
県内在住及び県内に勤務する一般成人

目 的：英語教育、英語学、並びに英米文学についての理解を
深める。

期 日：1998年7月24日(金)、25日(土)

会 場：文教大学越谷校舎

参加者数：39名

月日	時限	テ　　マ	講　師　名	会　場
7 月 24 日 (金)	1	「アメリカに於ける言語研究：文法論と心理言語学の立場から」	井川 寿子	3号館
	2	「言語習得に成功する条件：いかに環境条件を克服するか」	土屋 澄男	3号館
	3	「アイルランドとシマス・ヒーニーの詩」	本田 和也	3号館
7 月 25 日 (土)	1	「テスト問題作成の留意点」	広野 威志	3号館
	2・3	「授業研究」	櫻井 譲 篠原佳奈美	3号館

(2)書写・書道教育夏期講座

対 象：小学校／中学校国語科及び書写担当教員並びに埼玉県内在
住及び県内に勤務する一般成人

目 的：書写書道教育についての理解を深め、書写技能を高める。

期 日：1998年7月24日(金)、25日(土)

会 場：文教大学越谷校舎

参加者：28名

月日	時間	テ ー マ	講 師 名	会 場
7 月 24 日 (金)	1	「楷書の基礎」 1.用筆法 2.字形の整え方	米本 美雪	4号館
	2	「行書の基礎」 1.用筆法 2.字形の特質	林 信次郎	4号館
	3	「実用書式1」(硬筆・毛筆)葉書・封筒の表書き	林 信次郎	4号館
7 月 25 日 (土)	1	「実用書式2」(毛筆)祝儀袋・掲示物等	松田 久枝	4号館
	2	「鑑賞書式」条幅作品の書き方 書き初め他	磯野 浩之	4号館

③異文化体験講演会報告

日・時……1月21日(木) 16:20~18:00 641教室

演 題……「交換留学生在が語る日本」 参加者数 51名

「留学生としての日本での生活」

クレメンス・アンネ(ドイツ)

「あるヨーロッパ人の日本研究」

バックハウス・ペート(ドイツ)

「ニュージーランドと日本の大学生生活に見る違い」

ラシュブルグ・トビー(ニュージーランド)

98年度を振り返ってみる。①実用語学講座は今年度より職業ライセンスセンター(越谷)との共催となり例年通りに春・秋期に開講する。教室が10号館から正門近くの3号館に移動して参加者に利便を図り好評。②夏期公開講座(英語・書写書道)は7月24日(金)・25日(土)に実施された。毎年7月の4週目のこの時期に開催しているのであったが、現場の中学・高校の先生からまだこの時期は学校行事と重なることが多いということが指摘された。昨年と比べて出席者が減少していたのはこのためであろうか。開講日の設定について反省材料となる。③異文化体験講演会は1月21日(木)に開講された。第5回目の今回はニュージーランド(1名)、ドイツ(2名)の本学との交換留学生が話す。ラシュボロック・トビー(ニュージーランド)君は大学でみた日本とニュージーランドの違いを話す。カンタベリー大学の部活では先輩後輩の上下関係がなく、更に学部学科への学生の帰属意識も希薄で個人を大切にすることが述べられる。クレメンズ・アンネ(ドイツ)さんは女性らしい気配りからホームレスの老人との会話をしたことを話す。バックハウス・ベート(ドイツ)君は自分自身の日本観と日本語の勉強について語った。8才の時に初めて日本語を耳にし13才の時に日本は島国であり、15才で天皇がいることを知ったという。3人の日本語でのスピーチは出席者に共感を呼ぶ。特に日本語教育を履修する学生にとって有意義なものとなったであろう。昨年と同様に50名をこえる参加者があり企画立案者として安堵の胸をなでおろす。